

令和3年度 第1回那覇市総合教育会議議事録

署名人 平良 浩

市長 城間 幹子

1 開催日時 令和4年（2022年）1月26日（水）14時30分～16時00分

2 開催場所 庁議室

3 出席者 城間 幹子那覇市長
山城 良嗣教育長
教育委員：本仲 範男委員、平良 浩委員、
仲本 千佳子委員、二木 志保委員

4 協議事項

- (1) 「GIGAスクール構想の実現」の実施による現状と成果・課題
- (2) 那覇市立小中学校におけるいじめの対応について

5 出席職員

生涯学習部：小嶺部長

（総務課）稲福参事兼課長、新里主査

学校教育部：武富部長

（学校教育課）名嘉原課長、菊地副参事、與世原指導主事、西原指導主事

（教育研究所）宮里所長、上原主幹、平良主査

6 事務局職員

企画財務部（企画調整課）：金城部長、山口副部長、上原参事兼課長、宮平主査

7 傍聴人 なし

8 議事の経過 次のとおり

令和3年度 第1回 那覇市総合教育会議 会議録

令和4年1月26日(水)

城間市長 はいたい ぐすーよー ちゅうーうがなびら。

こんにちは、皆さま、本日は、令和3年度第1回那覇市総合教育会議にお集まりいただき、ありがとうございます。昨年度は、「第3次那覇市教育振興基本計画の素案について」、教育委員の皆さまからご意見をいただくことができました。今後も皆さまと市の教育の方向性など議論を交わしながら、本市の教育向上に努めてまいりたいと思いますので、今後ともお力添えのほど、よろしくお願いいたします。

協議の前に、会議録署名者を指名いたします。今回は、平良浩委員にお願いしたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。また、今日は令和3年度第1回ということですがけれども、二木委員が委員になっていただいて初めての総合教育会議でございます。よろしくお願いいたします。

それでは皆さまに、協議事項に入る前にお諮りしたいと思います。今回、協議される協議事項第2「那覇市立小中学校におけるいじめの対応について」は、個人情報が含まれるものとなりますので、協議事項第2は非公開と決定してもよろしいでしょうか。

全員 異議なし。

城間市長 異議がないということです。協議事項第2のほうは、非公開といたします。それでは、さっそく、協議に移りたいと思います。協議事項第1「GIGAスクール構想の実現の実施による現状と成果・課題について」、協議を進めていきたいと思っております。始めに、担当事業課より説明を行っていただき、その後意見交換を行いたいと思います。よろしくお願いいたします。

教育研究所 協議事項1「GIGAスクール構想の実現の実施による現状と成果・課題について」

*配布資料を基に概要説明(*詳細は省略)

城間市長 それでは、ただいま教育研究所のほうから説明がありましたGIGAスクールの対応等々についてご思慮を受けたいと思います。どうぞ、ご意見、ご質問、お願いいたします。平良委員、お願いいたします。

平良委員 まず、成果のほうで。アンケートにより使用頻度という形で、グラフが出ておりますけれども、GIGAスクールのICT機器を使った授業で、どれ位までの活用を目標にしていくことを考えていますか。

城間市長 お答えください。

教育研究所 今の質問ですが、毎時間端末を使用する訳ではありません。必要に応じて授業に取り組んでいただく。先生方によっては、毎日使う先生もいれば、単元のまとめで使ったりする先生もいます。

城間市長 よろしいですか。指導内容についても、教材等の内容についても、また、変わってくるかもしれませんね。他に、いかがですか。仲本委員、お願いいたします。

仲本委員 コロナになってから、かなり学校現場に負担等混乱があったりすると思います。保護者の一人としても感じる事としてですが、この半年で本当に、子ども達も、タブレットに慣れたようで自分で操作もかなりやっています。また先生からの課題の出し方、また授業の進め方、オンライン授業を8月の月と1月と比べて、かなり違っていて、この半年のこの教育委員会と教育研究所の努力と、学校現場の努力と、また、子ども達の適応力に、本当に驚いています。すばらしいなと。今は休校中の最低限の学習の保障というところで、注目していますけれど、本来GIGAスクールの目的は、おっしゃるように学習道具として、個別的に子どもそれぞれの適性に応じる形で、学習が進むようにということだと思います。次年度以降の、GIGAスクールの展開にとっても期待を持っているんですけど、私もちょっと職業柄、適応に課題を抱えるお子さん達を見ていることがあるので、この個別に対応できる、多様なお子さん達に合わせた学習スタイルというのを、このタブレットを使って進んでいてもらえたらなと思います。授業についていけないまた、興味関心が、一斉授業では注意が続かないお子さんとかへの工夫というのも期待できるんですけど、実は、IQが高く授業が退屈でしょうがないというお子さんも稀にいます。本人にとっては、空いた時間というのを、自分の興味の広がる所を叩いてくれるような、機能をフルに使ってもらえると、それぞれに合った学びが楽しくなっていくと良いなと、とても期待しています。

城間市長 激励と、ご意見、お褒めのお言葉をいただきました。私自身も子どもの可能性はたいへん大きいものであると思っています。ありがとうございました。ほかに、いかがでしょうか。山城教育長、お願いします。

山城教育長 先程の、平良委員の質問とも少し重なりますが、11月のアンケート調査の結果を見て、全く使用していない教員、それから週に1回程度の使用というのは、基本的には使用しないということと同じ位かなと、僕は思ったりするんですね。これが約5割。先程の仲本委員からもあったように、実際、休校時のオンライン授業等で、かなり腕を上げた先生が居る一方で、このアンケート結果を見ると、かなり両極化しているのかなというのが危惧されますが、その辺、学校の先生方の声だったり、管理職の声だったり、教育研究所のほうには届いていますか。

城間市長 山城教育長からの質問です。教育研究所、どうぞ。

教育研究所 使用しないという回答を行った教員の割合については、実はこのアンケートは、教員全員に対してのアンケート調査なので、実際に授業を持っていない先生、生徒指導主事であったり、そういう方が含まれています。また、低学年の教員が割合として高く入っていましたので、今後は、低学年でも活用できるような実践例を提供して行き

たいと考えております。

城間市長 山城教育長、どうぞ。

山城教育長 凄い抵抗感を持って、自分はできないよというふうな教員もいますか。

教育研究所 校長先生からの意見として、教育委員会の早くからの取り組みの中で、職員も最初は抵抗感があつたんですけれども、子ども達は、かなりスキルが上がってきていますし、先生方も、一つの情報活用能力として、学習活動の変化というよりも、学習活動を強化する意味では非常にいいツールだということです。酷い抵抗感というのは、今のところ聞いておりません。今、一人の先生が覚えた時には、例えば、2人で教えようねと、教えた人は、更に2人に教えて行こうという感じで、広がっていつてますので、マイナスの意見というより、積極的な意見のほうが多いです。大丈夫です。

山城教育長 どんどん経験からいけば、もっと活用が進んで行くという見通しは持っていて良いんですね。はい、分かりました。

城間市長 先生方も、子ども達と習いながら、教わりながら、逆に、子ども達が力を発揮できるように見守ることができれば、大事かも知れませんね。本仲委員、お願いします。

本仲委員 私、これまでGIGAスクール構想の進め方について、教育研究所のほうから、いろいろと報告を受ける中で、感想なんですけれども、よく学校現場のニーズにこたえた研修であるとか、それから指導・助言をされているなということで、私達自身は、大変、高く評価しているんですね。今、平良委員、山城教育長との質問にも関連する訳ですが、やっぱり、得手、不得手というのがあって、今この山城教育長と平良委員のご意見から、ちょっと20年位前のことを思い出しました。学校現場に、パソコンなどが入ってきて、そしてパソコンを使って授業するということが要求されてきて、あの時に、各学校にパソコンを使って授業ができる教員が何名いるのか、というようなアンケートまであつた訳です。それ位、やっぱり、得手、不得手というのがあって、大変、先生方も困っていらっしゃるんじゃないかなと思っているんですが、この教育研究所の担っているICT支援員の配置だとか、あるいは研修プログラムの実施とあるけれど、やっぱりこの学校現場のニーズに、よくこたえてしっかりと対応してくれているなど。だから、仲本委員もおっしゃっていましたが、今後も期待したいなということで、私もそう考えています。一つだけ、検討してもらいたいのが、現状の中のマル2「ICT教育推進部会を設置」の中の、ICT情報教育指導員と言うのがありますね。この指導員というのは、先程、データで確認したら、学校で配置されている教科指導員と同じような立場であるということでしたけれども、ただ、この方々に学校現場における教科指導員と同じように配慮してほしいと思うんですよね。この方達は、学校現場から非常にニーズが高い先生方だと思うんですよ。だから、例えば、授業時数の低減を図るとか検討すれば、このICT指導員の方達も学校に出やすいんじゃないかなと思うんですね。この辺、是非、ご検討していただければ

良いなと思います。

城間市長 これに対して、何かありますか。

教育研究所 過去にコーディネーター制度というのがございまして、学校内の授業時数の削減とか校務処理とかでの配慮というのもありました。学校の先生のほうにお願いをいたしております。

城間市長 二木委員、いかがですか。

二木委員 G I G Aスクール構想は、私は今回教育委員になって初めてというか、名前だけ知っていたぐらいで、具体的にお聞きしたのは、本当に最近ですけども、期待する所と危惧する所と、危惧する所は、ちょっと逆行してしまうので、あまり大きくは言えないけれども、やはり脳の発達にとって影響があるのかどうかということを危惧します。それからもう1つ。やはり、LDというような仲本委員がおっしゃったような、ハンディを持つお子さんにとっては、非常に力になることなので、是非、個別の支援に使っていただきたいということは、強くあります。それと不登校の児童に対しても非常に希望が持てるやり方だなと思っていて、今、まだ始まったばかりということで、学校における使用が中心とされていると思うんですけども、ゆくゆくは不登校のお子さんに対しても、皆と一緒にいなくても同じように勉強ができるということが、絶対に必要なことではないかなと思うので、是非、支援して頂きたいなと思っています。

城間市長 時代の流れとはいえ、私達が20年前、生きていた教育現場とは違って、スマートフォンもそうなんですけれど、今子ども達が生きる社会は、正にIT時代だと。教育委員会として、そして学校現場として、子ども達に、何が授けられるかということ考えた時に、危惧される場面もあるというようなこともありました。利点を是非とも使って、子ども達にチャンスや機会を提供するということに、我々努力しなきゃいけないと思います。

正に、そうですね。小学校の3年からプログラミングの授業がありますよね。3年位からですね。もう既に始まっているということなので、どんどん、子ども達も可能性というか、未来に向かっていきますよね。我々のほうが、追っかけて行くことがないように、くみ取るように前に出たりして、リードしていく場面も作らないといけないんだということで、皆さまからのご意見等をお伺いしました。

山城教育長 質問というか、要望にもなると思うのですが、このG I G Aスクール構想で、1人1台タブレットに対して、国から補助金も出していただいて整備が進んでいるんですが、その後の、例えば修理費や維持費と言った部分で、この後国予算の見通しはあるんですか。

教育研究所 今の所は、国から追加の補助で2台目以降に対する補助があるという情報はきておりません。そのため例えば市長会ですとか、教育長会、そういった機会を通して、ほ

かの自治体からも要望として挙げていますので、那覇市としても要望とする良い機会ではないかと考えています。

山城教育長 そうですね。さっきのことに関連するのですが、学校には、有効活用をしてくれと伝えている。僕らは指導、助言をするからとか、使用する環境を整える部分で、支障が出ないようにしっかりと維持してあげることは、とても大切なこと。これを市町村単位でやりなさいではなくて、国を挙げての施策であるのであれば、要望という声を上げて行かなければいけないかなというのが一点。後、使用方法について一点。先程のタブレットを使つてのトラブルもある反面、私が考えるにはどんな子にも、タブレットが手元にあるということは、困っている子、悩んでいる子が、気軽に自分のタブレットで、何らかの相談場所へのアクセスであったりできる可能性があるのではないか。そういうシステムができないかなと考えたりします。アイコンがあつて、ここを押せば、すぐ、相談センターの電話番号あるいはアドレスが入って、そこにメモで入れれば、相談できる。手元にタブレットがあるということは、こちら側から個人へメッセージをダイレクトに伝えることが可能だということだと、僕は思っている。学習以外の子供の成長のうえで、必要なサポートができる機能の充実といった部分が考えられないかなと思ったりしているんです。今すぐというよりも、こういうことができたなら良いなという要望という意味で聞いていただけたらなと思います。

城間市長 それに対して、いかがですか。

教育研究所 文部科学省が出している学習指導要領の中に、個別の学習というのがあります。そこには大きく2つの柱があつて、ICTを活用することと、少人数であること。皆さんのご意見があつたように、多分、今後文部科学省としては、そのような戦略でいくのかと思います。その中で、今、山城教育長がお話しされていたようなことも含めて、国も考えて予算化してくれることも希望として考えているところでございます。

城間市長 経過として、これからICTに対応する為に、タブレットを1人1台ということを要望出して、少しずつの支給があつたのが、コロナ禍の中で、一気に1人1台入って来たところで、急ぎ整備してたところです。後は、山城教育長からお話があつたように、その機能を活かしていくため市長会とかを通しての国への要望というのも、そろそろ2年経ちますので、機械は段々消耗していくので、それに対する修理代であつたり、維持費であつたりというのは、当初ほどは予算としてはないかもしれませんが、要望として声を上げる自治体が多ければということもあろうかと思っております。その場面になりましたら、私も声を上げていきたいと思っております。それから、今山城教育長からありました要望ということで、相談窓口としての活用ということがあります。子ども同士のトラブルは防いでいかなければいけないということですが、どのように実現して行くか、課題があるかと考えますが、SOSの窓口ですね。SOSの窓口としての活用は可能なのかということ、それを模索して頂いて、それが

子ども達に不利になるようなボタンであったら困るので、その辺りも、今後、可能性があれば、取り組んでいただきたいなというふうに思っています。

仲本委員 私は福祉の面で関わっていますが、個人の生き抜く力だけでは、自分1人で適切に情報を掴んで援助を求めて、つながっていくことが難しい人もいて。そのことは凄く生きやすさに大きく影響すると思うんです。人と交わったり、貧しいという人達もいたりして、みんな貧しさ、貧しいというのも、経済的にも貧しいだけでなく、人ともつながれない。やっぱり、情報にもつながれないということで、さらに孤立していくというのを、そこをどうやって地域の中から救い出していくかということで、凄く苦心するんですけど、やっぱり、子ども達が小さい頃から、こうやって助けてもらえる、助けてもらえる所に、何とか、つながろうとするという力が、ニーズでいくと、凄く良いと思うんです。自分の解決能力が、そんなに高くなくても、中学までの間のこの経験で社会を信頼してもらえというような、誰かが助けてくれる世の中なんだということを、子ども達が知って大きくなってもらえる。そんなコミュニケーションツールとしても、活用していく大きな可能性があるなと思います。

城間市長 いろいろ可能性を含めて、ご意見をいただきました。ありがとうございます。時間配分の中で、今、このGIGAスクールについては、この程度に留めて、また、時間がありましたら、最後のほうで自由な意見交換の時間を設けたいと思いますので、GIGAスクールについて、ご意見をいただいたということで、終了させていただきます。今年度からGIGAスクール構想が実現できましたけれども、この事業を進めていただく中で、今後について共有認識を持つと同時に、課題も多くありますが、引き続き連携を図っていききたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

城間市長 それでは次の協議題に進みたいと思います。よろしいでしょうか。

全員 異議なし。

城間市長 ありがとうございます。それでは協議事項の2番目は、非公開ということですので、関係者以外は退席をお願いいたします。

～関係者以外退席～

協議事項2は非公開のため概要のみ掲載。

(協議事項2の主な意見等)

- ・那覇市いじめ問題専門委員会の調査報告に係る今後の対応について（令和3年8月30日）学校教育課通知中、3「記録の作成と保存」について学校への周知方法はどのように行っているか。（学校教育課）学校教育課指導主事により、実際の対応内容を確認することも含めた研修により周知を図っています。
- ・『いじめ』を防ぐ指導のポイントなど教員の目に留まりやすいよう掲示物で示したり、マニュアル等作成し周知を図ってはどうか。

(学校教育課) 検討します。

- ・ いじめ問題の解決にあたり関係機関との連携が必要な際、教育委員会のサポートはあるのか。
(学校教育課) 問題の状況に応じ、情報共有しながら教育委員会もサポートしています。
- ・ 早期対応につながるような「ホウレンソウ」を徹底する意識付けが重要と考える。
- ・ 子供達の変化していく人間関係の中で、現在起きている「いじめ」と認知されることを見逃さないことが重要で、その中で、『いじめ』を認知する段階、解消したと判断される段階における記録として残す必要がある。